

カキ新品种‘紀州てまり’栽培マニュアル

～ ②へたすき果発生軽減技術および 接ぎ木更新時の省力樹形 ～



和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

へたすき果とは

カキ果実の成熟期に果肉とへたの接着部にすき間が生じる生理障害。重症になると、外観が悪くなるだけでなくすき間周辺が早期に成熟し軟果につながるため商品価値がなくなる。

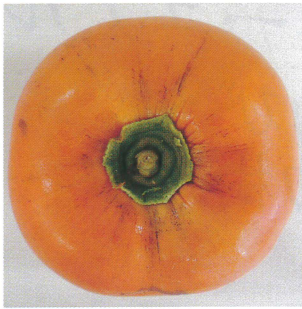
へたすき果は大果であるほど発生しやすく、へたが小さい果実で発生しやすいことが知られている。‘紀州てまり’は大果でへたが小さいため、へたすき果が生じやすい。



へたすき果

へたすき果発生対策

1. へたすき果程度



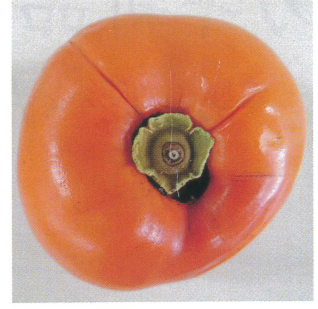
程度0



程度1



程度2



程度3

へたすき程度を4段階に分けて評価しました。へたすきが発生していない果実を程度0、へたで隠れる程度で発生している果実を程度1、外観からへたすきの発生がわかる果実を程度2、へたすきにより果実の変形や軟果がみられる果実を程度3としました。本マニュアルでは調査樹の全果実のへたすき程度を調査し平均した値を、へたすき程度として表記しました。

2. へたすき果発生対策

① 種子を入れない

‘紀州てまり’果実の含核数別にへたすき程度を調査すると、含核数が多いほど、へたすき程度が大きくなる事が分かりました（図1）。

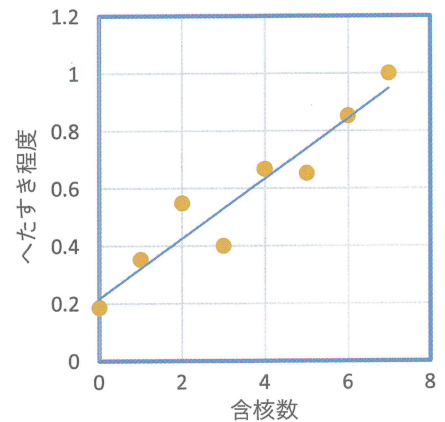


図1 種子数とへたすき程度の相関

- ・人工授粉は行わないようにしましょう。
- ・植え付ける際には‘禅寺丸’等の受粉樹がない園地を選定してください。
(受粉樹がある場合は伐採をご検討ください。)

② 大玉を狙いすぎない着果管理

‘紀州てまり’果実の階級別にへたすき果の発生を調査すると、階級が大きい果実ほどへたすき程度が大きくなる事が分かりました（図2）。

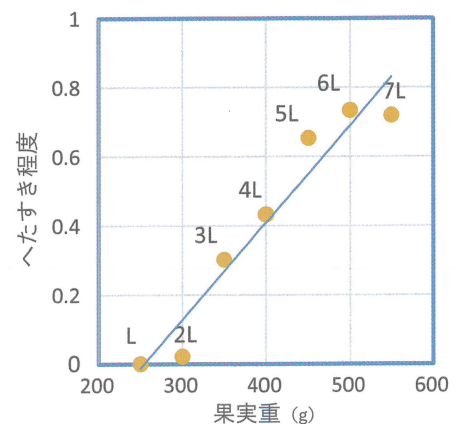


図2 果実階級とへたすき程度の相関

へたすき果発生対策

- ・大玉を狙いすぎないように着果管理しましょう。
- ・葉果比は 25 程度で着果させましょう。
(適正な樹勢の樹では1枝1蕾に摘蕾後、半数に摘果しましょう (写真1。))
- ・摘果は急がず、他の柿の摘果が終わった後、8月上旬に行いましょう。



摘果前



摘果後

葉果比 22



摘果前



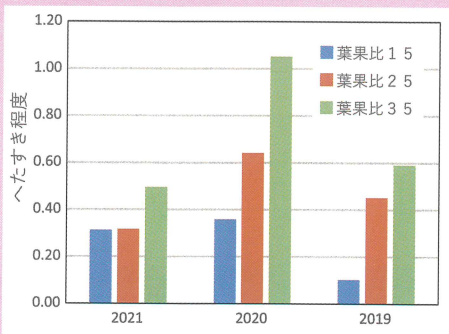
摘果後

葉果比 24

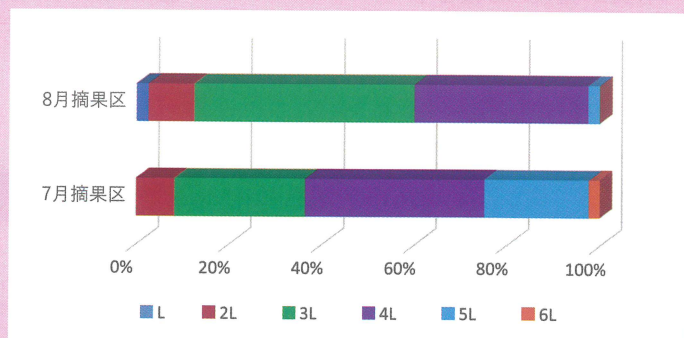
写真1 摘果の目安

●着果管理法の検討

葉果比別にへたすき程度を調査すると、葉果比が小さいほどへたすき程度は小さくなる。葉果比 15 では樹勢が低下するため、葉果比 25 程度が適切と考えられる。摘果時期を 7 月中旬と 8 月上旬で比較すると 8 月上旬のほうがへたすき程度が小さくなる。8 月上旬に葉果比 25 に摘果しても果実階級は 3 L、4 L 中心であるため、摘果は 8 月まで遅らせることが適当と考えられる。



葉果比別のへたすき程度



摘果時期別の果実階級 (2020)

*時期別に葉果比25に摘果

③ 強い枝に結果させない

結果枝長別にへたすき果の発生程度を調査すると、結果枝が長いほど障害の発生が多くなる傾向がみられました (図3)。

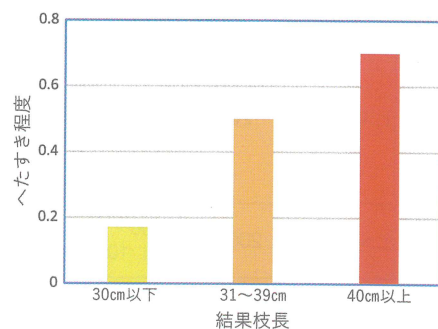


図3 結果枝長別のへたすき程度

- ・30 cm以下の長さの結果枝に着果させましょう。
- ・主枝や亜主枝先端等の強い結果枝は樹勢維持のためにも着果を避けましょう。

省力化樹形の開発

○ 省力的な接ぎ木更新法

- ・主枝、亜主枝への接ぎ木（省力樹形）（写真2）を行うと、作業時間を短縮できます（図4）。また、樹高が低くなるため脚立に登る時間を短縮でき、軽労的です。
- ・慣行よりも接ぎ木箇所が少なくなるため、枝幹害虫（ヒメコスカシバ、フタモンマダラメイガ）の防除が重要です。表1の登録農薬を参考に防除に努めてください（農薬使用時は必ずラベルの登録内容を確認してください）。
- ・風や果実の重みで枝が折れないように必ず添え木をし、支柱を立てて誘引してください（写真3、4）。

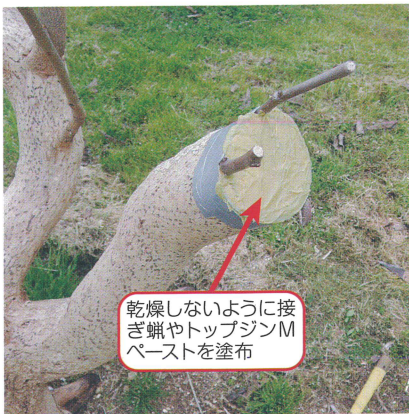


写真2 主枝への接ぎ木

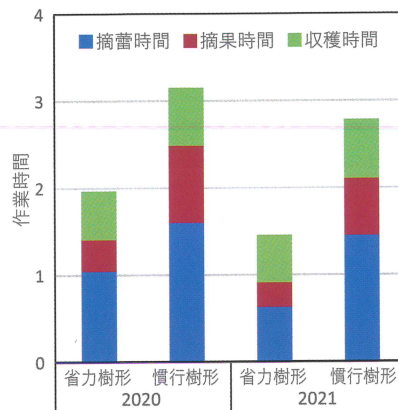


図4 樹形別の作業時間
*収量100kgあたりの作業時間



写真3 省力樹形
(接ぎ木1年目)

表1 カキ枝幹害虫の登録農薬* (一部抜粋)

薬剤名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	備考
フェニックスフロアブル	スカシバ類	200倍	5~200L/10a	開花期まで	1回	樹幹部及び主枝に散布	フルハツジ®アミト®を含む農薬の総使用回数：3回以内(樹幹散布は1回以内、散布は2回以内)
	フタモンマダラメイガ	200倍	5~200L/10a	開花期まで	1回	樹幹部及び主枝に散布	
	スカシバ類	4000倍	200~700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	
	フタモンマダラメイガ	4000倍	200~700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	
トラサイドA乳剤	ヒメコスカシバ	200倍	0.5~2.0L/樹	産卵期~幼虫食入初期 但し収穫30日前まで	2回以内	樹幹部に十分散布	マラソンを含む農薬の総使用回数：4回以内 MEPを含む農薬の総使用回数：3回以内(樹幹処理は2回以内)
テッパン液剤	ヒメコスカシバ	2000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	シタニリア®ロールを含む農薬の総使用回数2回以内

*令和3年12月時点



写真4 省力樹形（接ぎ木2年目）

本マニュアルに関する問い合わせ

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河 3336 TEL : 0736-73-2274 FAX : 0736-73-4690